



# 平成29年7月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年3月13日

上場会社名 株式会社 シーズ・ホールディングス  
 コード番号 4924 URL <http://www.ci-z-holdings.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成29年3月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成29年7月期第2四半期の連結業績(平成28年8月1日～平成29年1月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第2四半期	21,175	20.7	4,500	47.9	4,654	51.7	3,514	67.0
28年7月期第2四半期	17,548	1.2	3,043	4.3	3,068	2.5	2,103	9.8

(注) 包括利益 29年7月期第2四半期 3,766百万円 (80.5%) 28年7月期第2四半期 2,086百万円 (4.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第2四半期	72.26	
28年7月期第2四半期	44.59	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年7月期第2四半期	36,838	29,577	78.0	590.45
28年7月期	36,140	27,951	75.2	558.72

(参考) 自己資本 29年7月期第2四半期 28,716百万円 28年7月期 27,173百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年7月期		0.00		44.00	44.00
29年7月期		0.00			
29年7月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 配当予想の修正については、本日(平成29年3月13日)に公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 3. 平成29年7月期の連結業績予想(平成28年8月1日～平成29年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,400	7.5	8,500	3.8	8,500	3.9	6,130	15.9	126.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 連結業績予想の修正については、本日(平成29年3月13日)公表いたしました「平成29年7月期第2四半期累計期間の業績予想と実績値の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

29年7月期2Q	48,635,255 株	28年7月期	48,635,255 株
29年7月期2Q	70 株	28年7月期	株
29年7月期2Q	48,635,235 株	28年7月期2Q	47,185,351 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあり、緩やかな回復に向かうことが期待されております。ただし、アメリカの金融政策の正常化が進む中、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れをし、わが国の景気が下押しされるリスクが存在しております。

このような環境の中、当社グループのブランドをグローバルブランドへと成長させるべく、米国のジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業主導の海外展開を、平成29年1月より始動いたしました。

また当第2四半期連結累計期間の経営成績については、前第3四半期連結会計期間から新たに株式会社シーズ・ラボが連結対象となり、前年同期と比較して連結売上高と各段階利益が増加したことに加え、ラボラボブランドの売上高が引き続き国内外で急拡大した結果、売上高は21,175百万円(前年同期比20.7%増)、営業利益は4,500百万円(前年同期比47.9%増)、経常利益は4,654百万円(前年同期比51.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,514百万円(前年同期比67.0%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### <ドクターシーラボ事業>

ドクターシーラボ事業においては、ドクターシーラボブランド・ラボラボブランド・ジェノマーブランドで構成される3つの化粧品ブランドと健康食品を販売しております。

ドクターシーラボ事業をブランド別に見ますと、主力ブランドであるドクターシーラボブランドは、アクアコラーゲンゲルシリーズに続く第2の柱を育てるべく、「VC100エッセンスローション」を中心としたVC100シリーズの展開を行っており、中でも「VC100ホットピールクレンジングゲル」は、発売開始以来、好調な売れ行きとなりました。また、ホワイト377シリーズ・ボトリウムシリーズ・アクアインダームシリーズといった美容液のロングセラー商品について、リニューアルまたは限定品販売を行ったことで前年同期比で売上高を伸ばすことができました。

ラボラボブランドは、インバウンド需要の恩恵を最も受けた「スーパー毛穴ローション」が、引き続き売上を大きく伸ばしました。特に中華圏のお客様からの前年同期を大きく上回るお買い求めが国内外であり、化粧品全体の売上増加に大きく貢献いたしました。

ジェノマーブランドは、高価格帯のブランドとして定期的に既存商品のリニューアル及び新商品の発売を行っております。

健康食品については、主力商品である「美禅食」の新味としてカカオ味を発売いたしました。健康食品全体では前年同期よりも広告費を投下したものの、売上高は前年同期比で減収となりました。以上により、ドクターシーラボ事業の売上高は、19,880百万円(前年同期比13.3%増)、営業利益は4,228百万円(前年同期比38.9%増)となりました。

次にドクターシーラボ事業を販路別に見ますと、通信販売においては年末年始の需要期に福袋の拡販を行うなど、アクアコラーゲンゲルを含めたセット商品の販売を積極的に推し進めてまいりました。中でも「VC100エッセンスローション」とアクアコラーゲンゲルとのセット販売が好調で、購入単価の引上げにも繋げることができました。この他、通信販売で数量・期間限定販売した「アクアインダーム導入エッセンススペシャル」「メガホワイト377VC」が好調な売れ行きとなり、休眠顧客等に反響がありました。しかしながら、通信販売全体では新規顧客の獲得及び休眠顧客の復活が想定数よりも下回る結果となりました。以上により、通信販売の売上高は11,317百万円となり、前年同期と比較して1.8%減少いたしました。

卸売販売においては、中華圏のお客様の需要期に向けて、「スーパー毛穴ローション」を都市部のドラッグストアを中心に積極的な出荷を行い、前年同期を大幅に上回る売上高となりました。また、当社の顧客層において、相対的に顧客割合が少ない20代後半～35歳の顧客層を拡大させるべく、幅広い世代から人気が高い「VC100エッセンスローション」と当該商品のシリーズ商品に関して、お客様の目に留まりやすい定番棚に配置をするなどの販売施策を行ってまいりました。以上により、卸売販売の売上高は4,264百万円となり、前年同期と比較して26.1%増加いたしました。

対面型店舗販売では、お客様の満足度向上のために継続的なお手入れ会を実施してきたことに加え、来店客数及び来店回数の増加を目的として、来店客へのプレゼント贈呈や、商品の試用・カウンセリングをご提供する機会を多く設けるなどの施策を積極的に行ってまいりました。外国人観光客のインバウンド需要につきましては、銀座・新宿・池袋エリアの百貨店での販売にも力を入れてまいりました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、2,008百万円となり、前年同期と比較して8.3%増加いたしました。

海外においては、香港は前連結会計年度に引き続き、「スーパー毛穴ローション」が好調な売れ行きだったことに加え、「スーパーホワイト377VC」についても売上が伸長いたしました。台湾は、年最大の需要期である週年慶に各百貨店でセールが実施され、主に「スーパー毛穴ローション」やUV商品の売上が好調に推移いたしました。シンガポールでは、卸チェーンストアのワトソンの取扱店舗が拡大している中、「スーパー毛穴ローション」だけではなく、アクアコラーゲンゲルなどのドクターシーラボブランドについても、雑誌や記事などで商品が取り上げられ、商品認知の底上げがなされております。以上により、海外の売上高は、2,289百万円となり、前年同期と比較して192.3%増加いたしました。

#### <エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、新店舗の出店は当初の計画よりも遅れているものの、既存店舗では首都圏及び大阪の店舗を中心に契約数が順調に積み上がっております。また各店舗における物品販売にも力を入れることで、一店舗当たりの増収と収益性の向上にも寄与いたしました。以上により、エステ・サロン事業の売上高は、1,295百万円、営業利益は273百万円となりました。

## (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年7月期の通期連結累計期間の業績見通しを修正いたしました。

詳細につきましては、本日発表の「平成29年7月期第2四半期累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。
- (4) 追加情報  
(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針)  
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,829,693	20,100,558
受取手形及び売掛金	5,686,957	4,327,265
有価証券	233,511	230,817
商品及び製品	2,070,491	2,215,258
原材料及び貯蔵品	1,308,152	1,119,189
その他	1,296,666	2,102,950
貸倒引当金	△61,224	△70,425
流動資産合計	29,364,248	30,025,614
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,132,156	1,139,931
減価償却累計額	△420,839	△428,252
建物(純額)	711,317	711,678
工具、器具及び備品	1,436,052	1,442,572
減価償却累計額	△1,143,439	△1,152,585
工具、器具及び備品(純額)	292,612	289,986
土地	1,315,861	1,315,861
その他	175,674	190,015
減価償却累計額	△66,796	△73,501
その他(純額)	108,878	116,514
有形固定資産合計	2,428,669	2,434,040
無形固定資産		
ソフトウェア	267,945	208,693
ソフトウェア仮勘定	933,738	1,161,080
のれん	2,180,217	2,034,869
その他	21,649	20,325
無形固定資産合計	3,403,551	3,424,969
投資その他の資産		
その他	964,748	974,462
貸倒引当金	△20,534	△20,534
投資その他の資産合計	944,213	953,927
固定資産合計	6,776,435	6,812,938
資産合計	36,140,684	36,838,552

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	554,407	875,748
未払金	1,984,749	1,889,120
前受収益	1,161,666	991,666
未払法人税等	1,953,858	1,476,947
賞与引当金	153,923	122,776
ポイント引当金	149,199	153,112
その他	1,877,171	1,383,340
流動負債合計	7,834,976	6,892,712
固定負債		
退職給付に係る負債	187,944	202,500
その他	166,349	165,985
固定負債合計	354,294	368,485
負債合計	8,189,271	7,261,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,959,358	2,959,358
資本剰余金	3,436,758	3,436,758
利益剰余金	20,790,661	22,164,995
自己株式	—	△230
株主資本合計	27,186,778	28,560,882
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221	△6
為替換算調整勘定	△13,590	155,853
その他の包括利益累計額合計	△13,368	155,846
非支配株主持分	778,002	860,625
純資産合計	27,951,412	29,577,354
負債純資産合計	36,140,684	36,838,552



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)
売上高	17,548,232	21,175,537
売上原価	3,302,125	4,387,078
売上総利益	14,246,106	16,788,459
販売費及び一般管理費	11,202,658	12,288,250
営業利益	3,043,448	4,500,209
営業外収益		
受取利息	1,346	587
受取配当金	83	—
為替差益	—	112,699
受取手数料	15,208	15,875
商品破損受取賠償金	5,068	5,502
その他	15,788	19,802
営業外収益合計	37,495	154,466
営業外費用		
支払利息	289	247
為替差損	11,753	—
その他	276	304
営業外費用合計	12,319	552
経常利益	3,068,624	4,654,124
特別利益		
固定資産売却益	—	3,963
事業譲渡益	—	389,647
特別利益合計	—	393,610
特別損失		
減損損失	8,787	10,910
固定資産除却損	184	85
固定資産売却損	—	33
特別損失合計	8,971	11,029
税金等調整前四半期純利益	3,059,652	5,036,705
法人税等	955,735	1,439,698
四半期純利益	2,103,916	3,597,006
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	82,721
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,103,916	3,514,285

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)
四半期純利益	2,103,916	3,597,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,676	△326
為替換算調整勘定	△19,788	169,443
その他の包括利益合計	△17,112	169,116
四半期包括利益	2,086,804	3,766,123
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,086,804	3,683,500
非支配株主に係る四半期包括利益	—	82,623

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,059,652	5,036,705
減価償却費	143,234	178,754
長期前払費用償却額	3,854	950
貸倒引当金の増減額(△は減少)	21,067	9,201
賞与引当金の増減額(△は減少)	△22,665	△31,147
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,495	3,912
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	9,688	14,555
受取利息及び受取配当金	△1,430	△587
のれん償却額	—	145,347
支払利息	289	247
減損損失	8,787	10,910
固定資産除却損	184	85
固定資産売却損益(△は益)	—	△3,929
事業譲渡損益(△は益)	—	△389,647
売上債権の増減額(△は増加)	634,602	1,399,737
たな卸資産の増減額(△は増加)	121,054	49,548
仕入債務の増減額(△は減少)	138,200	278,061
前受収益の増減額(△は減少)	—	△170,000
未払金の増減額(△は減少)	590,380	△38,565
未払消費税等の増減額(△は減少)	△292,362	△414,786
預り金の増減額(△は減少)	38,764	△28,883
その他	△172,409	339,813
小計	4,283,389	6,390,285
利息及び配当金の受取額	1,362	587
利息の支払額	△289	△247
法人税等の支払額	△1,445,257	△2,714,740
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,839,204	3,675,884
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の償還による収入	—	2,227
有形固定資産の取得による支出	△59,450	△121,331
無形固定資産の取得による支出	△267,467	△317,296
敷金及び保証金の差入による支出	—	△8,532
敷金の回収による収入	5,714	942
その他	△3,409	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△324,612	△443,990
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△1,934,523	△2,138,831
自己株式の取得による支出	△1,600	△230
その他	△6,124	△9,028
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,942,249	△2,148,090
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18,598	187,062
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	553,743	1,270,864
現金及び現金同等物の期首残高	12,495,299	18,829,693
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,049,043	20,100,558

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額	合計
	ドクターシーラボ事業	エステ・サロン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	17,548,232	—	17,548,232	—	17,548,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	17,548,232	—	17,548,232	—	17,548,232
セグメント利益	3,043,448	—	3,043,448	—	3,043,448

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシーラボ事業	エステ・サロン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	19,880,369	1,295,168	21,175,537	—	21,175,537
セグメント間の内部売上高又は振替高	45,556	—	45,556	△45,556	—
計	19,925,925	1,295,168	21,221,094	△45,556	21,175,537
セグメント利益	4,228,307	273,854	4,502,162	△1,952	4,500,209

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,952千円は、セグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「化粧品事業」「健康食品事業」及び「エステ・サロン事業」の3区分から、「化粧品事業」と「健康食品事業」を合わせた「ドクターシーラボ事業」と「エステ・サロン事業」の2区分に変更しております。これは、当連結会計年度より開始する第5次中期経営期計画において、今後新規事業を含めたグループ事業の拡大を計画しており、株式会社ドクターシーラボの「化粧品事業」と「健康食品事業」をまとめた「ドクターシーラボ事業」と株式会社シーズ・ラボの「エステ・サロン事業」という2つの事業区分で経営管理することに変更したためでございます。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。